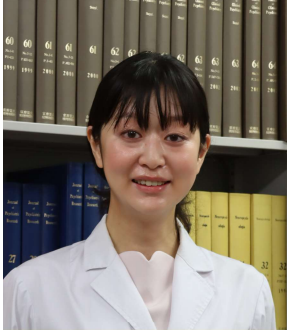


# 高齢者の孤独を低減するVirtual Reality (VR)プログラムの開発

## ① アピールポイント



大学院生  
今井 鮎

この研究は、高齢者の孤独感や孤立を低減するための“VR露天風呂”プログラムの開発を目指しています。このプログラムが高齢者の認知機能や精神状態、脳の状態にどのような影響を与えるかを調べます。

## ② 研究の出口のイメージ

認知症の予防や認知症に伴う諸症状の緩和、介護者の負担軽減を目指します。高齢者やその介護者の福祉に関心のある企業との共同研究を希望しています。

## キーワード

Virtual Reality (VR), 認知症, 孤独感, 認知機能, 介護負担

## 研究内容

近年、感染症のまん延もあり、私たちはかつてない規模の孤立や孤独を経験しています。孤独は死亡率を1.5倍に、認知症のリスクを1.6倍にするとされており、孤独や孤立を解消する取り組みは世界的にも注目されています。しかし、感染症や基礎疾患の影響で、高齢者がこのような取り組み参加するのは難しいことが多いのが事実です。

この研究では、孤独感や孤立を低減するためのVRプログラムの開発を目指します。グループで洗面器と入浴剤を使用して、足湯をしながらVRで各地の温泉地を体験することで、その温泉地の露天風呂に入浴している気分になれるというプログラムを予定しています。また、この取り組みが認知機能や精神症状、脳の構造や機能にどのような影響を及ぼすか調べます。認知症予備軍といわれる人々にVRを用いたアクティビティで介入することで孤独感を軽減させ、認知症のリスクを低減できる可能性があります。

